

糸満市大綱引き祭りの変容から見る「伝統の継承」

Succession of tradition in Itoman City tug of war

1K10C081-0 大石 俊介

主査 寒川 恒夫 先生

副査 杉山 千鶴 先生

【目的】

早稲田大学スポーツ科学部寒川恒夫研究室は沖縄における大綱引き文化を調査するために2012年9月26日～10月1日及び2013年9月16日～20日にかけて、沖縄県本島南部に位置する糸満市の字糸満地域を訪れた。沖縄県では、農耕儀礼として雨乞いや害虫除け、次の年の豊作祈願のために、農事の区切りとなる旧暦6月から8月にかけて綱引きを行ってきた。現在でも県内各地で綱引きが行われており、伝統行事として人々に親しまれている。糸満市も例外ではなく、字糸満においては古式伝統を遵守し、毎年旧暦の8月15日に糸満大綱引き祭りが開催されている。しかし、その一方で祭り自体は時代に合わせて、より合理化、簡略化され、新しい演目(HIP-HOPダンスや流行りのアイドルのダンス等)の導入や交通整備に伴う綱引き競技のルールの変化等、柔軟に新しい風を取り入れている。本研究においては、旧暦2012年8月15日(新暦2012年9月30日)に開催された糸満大綱引き及び旧暦2013年8月15日(新暦2013年9月19日)を通して、祭事を取り巻く人々の伝統文化に対する気構えと伝統行事がどのように受け継がれてきているかを理解し、糸満大綱引き祭りにおける「伝統の継承」とは何かについて考察することがその目的となる。

【方法】

2012年9月26日～10月1日及び2013年9月16日～20日にかけて、字糸満にて行なったフィールドワークの結果及び、糸満市役所、糸満市立図書館等の文献資料から、糸満大綱引き祭りの変遷を辿り、祭事を取り巻く人々がどのような気構えを持って、関わっていたのかを考察する。

【考察】

第一章 沖縄県における綱引きとは

第一章ではそもそも、沖縄県における綱引きの概要について述べていく。沖縄県では前述した通り、農耕儀礼として、長年、綱引きを行なってきた。祭事としての綱引きについて、基本的な要素を紹介していく。

第二章 糸満市概要

第二章では糸満大綱引き祭りの考察に入る前に、糸満市の

概要について述べていく。糸満市は第二次世界大戦での沖縄戦において、甚大な被害のあった地域として知られている。糸満大綱引き祭りを考察する際、糸満市の文化、風俗を始め、そのような戦争の歴史についても切り離すことはできない。その様な理由から、糸満市についての考察をこの章で述べていきたい。

第三章 糸満大綱引き祭りとは

第三章では糸満大綱引き祭りのコンテンツについて、述べていく。糸満大綱引き祭りではどのようなことが行われているのか、どのように組織化されているのか等、糸満大綱引き祭りの基本的な事項について述べていく。

第四章 糸満大綱引き祭りの変容

第四章では糸満大綱引き祭りを(1)準備段階(2)道ズネー(3)綱引きと3つのフェーズに分けて、現在と過去の事例を比較し、どのように変わっていったのかについて、考察していく。

第五章 糸満大綱引き祭りで継承しているもの

第五章ではそれまで述べてきた事項を踏まえて、糸満大綱引き祭りを取り巻く人々はどのような気構えを持って祭事に臨み、どのような事を大切にしているのかについて考察していく。糸満大綱引き祭りで継承しているものについて、述べながら、祭事における「伝統の継承」とは何かについて考察し、まとめる。

【結果】

多くの人々が関わる祭事において、伝統を継承する際に、形式を当初のまま維持し続けることは極めて困難であり、それは糸満大綱引き祭りも例外ではない。伝統の継承を「形式の保存」と定義するならば、糸満大綱引きは伝統の継承が正しく行われていないと考えることができる。しかし、「形式が当初とまったく変わらずに続く伝統が他にあるのか」という疑問を提起した時、むしろ、伝統とは変容するものであり、その時その時に取り入れたものが何層にも重なり、熟成され、魅力が増すものであると考えられる。形式に着眼するのではなく、その祭事が行われる意義・意味に着目し、「伝統の継承」とは「その伝統の意義・意味を次の時代に繋げること」という定義の上に立つことで、糸満大綱引きは当初からの意義である「楽しむこと」を継承しているのだと分かった。